

# 令和6年度 真壁城跡中城庭園の調査

## 概要

真壁城跡は平成6年(1994)10月28日に国史跡に指定され、平成9年(1997)より遺構の保護や史跡整備のための発掘調査を実施してきました。現在は中城地区で発見された庭園跡の全体像の解明をめざして、調査を行っており、今年度は小範囲の補足調査を実施しています。来年度からは発掘調査に基づく史跡整備の検討を進めるため、発掘調査は今年度でいったん中締めとなります。

## 中城庭園跡のまとめ

中城地区の中央部から池跡や複数の建物跡が見つかり、お城の中につくられた庭園の跡と判明しました。周辺からは「かわらけ」という素焼きの小皿(酒杯)や茶道具が出土しています。当時の複雑な勢力争いの中で立ち回るため、中城庭園は政治的・文化的・外交的な場として機能していたと考えられます。

## 今年度の調査成果

### 方形竪穴遺構 (旧竪穴状遺構)

東西5m、南北7mの方形の窪みで、これまでは侵入を阻害するための障害物や排水設備などと想定していましたが調査を進めた結果、当初よりも床面が下がり半地下状の方形になることや、縁沿いに柱穴が巡ること、入口と思われるスロープがあること、堀落ち際の斜面に階段状の硬化面があることが確認されました。また、この遺構の周辺に城道や小規模な土塁があることなどから、道を見張るための兵隊の詰所のようなところだったのではないかと考えられます。



方形竪穴遺構イメージ図  
こかわでらえんぎ  
('粉河寺縁起'を参考に作画)



小皿のかわらけが  
たくさん出土しているのは  
わしも初めて見たから  
皆もぜひ見てっくる!



かわらけ

### 小規模な土塁

戦国時代の地面の上に突き固められた盛土が見つかりました。周囲にも粘土や盛土の痕跡があり、小規模な土塁の跡だと考えられます。

### 城道

外曲輪から中城南東虎口を通して二の丸東虎口へ続く城道は途中で別の道と交差する(十字路)ことが確認されました。城道には側溝が設けられており、交差点の所には排水溝と考えられる大きい溝が南北に走っています。側溝からは戦国時代の土器などだけでなく、江戸時代の陶磁器も出土していることから、真壁城が廃城した後も利用されていたことが分かりました。

# 中城庭園の遺構配置図

